

誰も自分らしく生きられる世界に

カーボンニュートラルやゴミ問題、ジェンダーなどについて4名の高校生に座談会形式で語ってもらった。
 高校生のリアルな視点や体験などを交えた、10代が描く2050年の世界や自分とは。

Q.自己紹介をお願いします。

石島 東京都の聖徳学園で普通科に通っています。国際交流ボランティアとSDGsの団体の活動をしています。

アレフィン 東京都立科学技術高等学校の科学技術科でバイオ系の分野を学んでいて、主に介護食についての研究をしています。

原口 3年生なのでもう引退してしましますが、宮崎学園で「インターアクト」という国際ボランティアの部活に所属し、活動してきました。

川崎 岩手県の釜石高校SSHで国際・外国語ゼミに入って、途上国のゴミ問題を中心に研究しています。

Q.SDGsで興味がある分野は？

Keyword

ジェンダー、貧困、教育、環境問題

石島 SDGsのジェンダー問題に興味を持ったのがきっかけで、そこから先生に紹介されて国際協力のボランティア活動を始めました。

アレフィン 父の母国バングラデシュで貧困を目の当たりにしたことから「貧困をなくそう」に興味を持っています。

原口 部活でマラウイに関わり、現地の子どもたちが十分な教育を受けられないことを知って「教育」に注目しています。今、オンラインでカンボジアの子どもたちに日本語と英語を教えるボランティアをしているのですが、子どもたちはすごく熱心で、授業を楽しんでくれています。日本では教育は当たり前前のことですが、当たり前じゃない場所もあることを実感しています。

川崎 「環境問題」に関心があり、特にゴミ問題について調べています。ゼミでJICAの方を通じてシエラレオネの人にオンラインでインタビューする機会があり、現地のゴミの状況や環境問題に関して話を聞きました。

Q.途上国のゴミ問題

Keyword

ゴミ収集、感染症、平均寿命、今日を生きることで精一杯

川崎 「環境問題」に関心があり、特にゴミ問題について調べています。ゼミでJICAの方を通じてシエラレオネの人にオンラインでインタビューする機会があり、現地のゴミの状況や環境問題に関して話を聞きました。

川崎 学校の現代社会の授業で、日本やアメリカ、中国などの先進国から途上国にゴミが送られているということを知り衝撃を受けました。現地では日本のようにゴミの収集が活発ではないので、燃やすことしかできません。私たちは、自分たち先進国のゴミによって途上国の人たちに感染症など様々な影響があるという事実をもっと知るべきだと思います。

原口 シエラレオネの感染症にゴミ問題が関わっているのでしょうか？

川崎 河川が洪水などで氾濫したときに、一箇所にまとめて置いているゴミが川に流れ出し、飲み水に異物が入って感染症になるという問題があるそうです。また、燃やしたゴミから有害物質が出てくるなど、いろいろな要因が感染症につながっているようです。

原口 先進国ではカーボンニュートラルの実現に向けた動きがありますが、途上国では今日を生きることと精一杯です。ゴミなどの環境問題になかなか目が向けられないのではないのでしょうか。マラウイでは森林を伐採して木材

Q.環境問題解決への最初の一步は？

Keyword

知る、伝える、話し合う

石島 私の所属している団体では社会課題に対して、とにかく知ってもらうためのイベントなどを企画しています。知らないとなにも始まりません。メンバーは学校も得意分野も違うのでたくさん話し合い、そこで知った情報を団体から学校、学校から同世代の人と広げていきます。まずは「知る」ことが、自分たちができる第一歩ではないでしょうか。これには道具もなにも必要ありません。

原口 石島さんの意見に賛成です。まずは自分が知ることが大切で、そこから人に伝えていくことも必要だと思います。特に環境問題は私たちの世代も行動して解決していく必要があります。ひとりではなにもできないので、たくさんの人に広めて周りの人たちと一緒に解決していきたいです。

川崎 自分の成長を止めてしまわないように、知ることは大切ですよ。そして、安易にうわべだけの情報でその国を知った気になるのは失礼なので、本当のことを知り、伝えるように意識したいです。そうしないと根本的な問題解決に至らないのではないのでしょうか。

Q.みなさんが描く2050年の世界は？

Keyword

カーボンニュートラル、同性婚、経済格差、共存、認められる社会、誰もが自分らしく生きる

原口 マラウイでの活動や国際協力について調べていくうちにカーボンニュートラルという言葉を知りました。日々のなにげない行動がCO₂排出や環境負荷につながっていることを知りショックを受け、先進国が排出しているCO₂が途上国に大きく影響していることを知って悲しくなりました。日常的に自分たちができることがたくさんあるのではないかと感じていました。

石島 カーボンニュートラルの実現は、現実味がないほど大きな課題で、最初は無力感を感じました…。

川崎 私も難しい内容だなと感じました。CO₂排出とそれを森林の力などでプラスマイナスゼロにすることを、世界中で平等に行うのは、本当に難しいこと。誰がどう排出してゼロにするの

かの計算も難しいし、その量も必ずしも一定ではないと思います。

石島 カーボンニュートラル実現に近づけるためには、2050年にはもっと自然が守られ、植物が増えていくべきではないのでしょうか。同時に、異常気象や海洋環境なども改善されているほしいです。カーボンニュートラルだけでなく、社会問題もすべての課題がまんべんなく解決に向かっていないとどこかで行き詰まるので、それぞれの分野の専門家の意見を聞いて、まんべんなく知識を持つ人を増やすのが大事だし、自分もそんな人間になりたいです。

アレフィン 自然環境解決のために尽力している人がたくさんいます。2050年に向けて社会はよくなると思うし、みんなが認められる社会になってほしいです。

川崎 先進国と途上国の格差もなくなつてほしいと思います。格差があるからゴミが送られているし、格差があるから教育を受けられない。先進国と途上国という枠組みもなくなつて、みんなが自分の就きたい仕事に就ける私たちがしたら当たり前の生活を途上国の人にとつても当たり前にしてほしいです。

原口 私も同感です。国同士の格差もですが国内の格差もなくなつてほしいです。国際協力に関しては、途上国の

で生計を立てている人も多いようですが、そうしないと生きていけないという現実があります。

川崎 本当にその通りだと思います。シエラレオネではゴミを拾って集めることを仕事にしている人もいます。それが仕事になるほど、生活が苦しい。原口さんがおっしゃったように途上国の人たちはその日を生きたことに必死ですし、シエラレオネは平均寿命も50代と早いです。私たち先進国では教育を受けて仕事をして長生きして好きなことができますが、途上国ではそんな当たり前のことができなくて、話を聞くと胸が苦しくなります。

石島 原口さん、川崎さんのお話を聞いて、自分たちが思っている以上に、他の国の人に助けてもらっていると思いました。先進国は助ける一方ではなくて助けられている側面もあるし、それを前提としてどれだけお返しができるかと思いました。

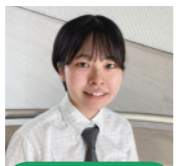
人も喜んでくれるから私たちが「やっであげている」という認識ではなく、お互いが自立して共存していけるように、一緒にさまざまな課題を解決していくことが大切ではないのでしょうか。漠然としているかもしれませんが、みんなが自分らしく生きられる世界になったらいいと思います。

石島 ジェンダー問題でいうと、結婚に性別が関係なくなればいいと思います。異性婚、同性婚という制限がなくな

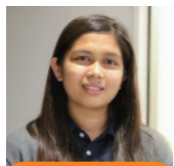
PROFILE



川崎 祐奈さん
 岩手県立釜石高等学校SSH2年生
 シエラレオネのゴミ問題を研究中



原口 陽花さん
 宮崎学園高等学校3年生
 マラウイでの循環型ビジネスを経験



アレフィン・ダルヴェングエンさん
 東京都立科学技術高等学校2年生
 現在は食分野の研究をしていて、将来は生物学を学びたい



石島 茉優さん
 聖徳学園高等学校2年生
 国際交流ボランティアとSDGsの団体の活動中